

小須戸商工会景況調査報告書

組織番号	2 1
商工会名	小須戸商工会
報告者名	佐藤 英

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 小須戸商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
ウ 回答企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 令和2年7月～令和2年12月
(調査時点 令和2年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	5	16.7%	5	16.7%
建設業	5	16.7%	5	16.7%
卸・小売業	10	33.3%	10	33.3%
サービス業	10	33.3%	10	33.3%
合計	30	100.0%	30	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

顧客の高齢化、後継者不足、需要の停滞等の影響を受けている中で、新型コロナウイルス感染症が各事業者に大きな影響を与えている。全体的には落ち込んだが、下期にかけては一部で回復傾向も見られた。地区内で感染症の影響による廃業は出ていないものの、資金繰りは悪化傾向にある。感染症が収束するまで先行きが不透明な状況が続くと思われる。

【後継者の状況】

後継者は9割が不在となった。承継は考えておらず、廃業という事業者が多い。

後継者 あり	3事業所	10.0%
後継者 なし	27事業所	90.0%

【売上高】

感染症の影響により前年同期比では6割が減少した一方で、前期比では増加に転じた事業者が4割を超えた。しかし、前期比でも減少した事業者も4割あることから、影響は続いている。また、見通しについても不変または減少が9割に及ぶことから見通しは厳しい。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
6	4	20	13	5	12	3	19	8

【採算】

売上が減少傾向にある中、前年同期比では悪化しているものの、経費の削減や補助金・助成金・協力金等を利用して経常利益を確保していることが伺える。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
3	12	15	5	19	6	2	22	6

【仕入単価】

前期において在庫不足の状況に一時陥った業種もあったものの、現在仕入単価に影響はほとんど出ていない。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
9	21	0	0	30	0	1	29	0

【販売（客）単価】

客単価は、前年同期比で5割が低下し、前期比では約6割が不変となった。ヒアリングでは客単価だけではなく、来店頻度も低くなっていることから厳しい状況にあることが伺える。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
3	12	15	4	19	7	1	25	4

【資金繰り】

前年同期比で4割が悪化、前期比でも3割が悪化した。制度融資や特別貸付制度の相談に来所される事業主も増加した。

前年同期比

好転	不変	悪化
1	17	12

前期比

好転	不変	悪化
1	19	10

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	21	9

【雇用動向】

雇用動向については、大きな変動はなく現状維持が続いている。離職による補充はするが、新採用は予定していないとの声も聞かれた。

前年同期比

増加	不変	減少
1	28	1

前期比

増加	不変	減少
1	29	0

今後の見通し

増加	不変	減少
1	29	0

【景況判断】

前年同期比で7割が悪化、前期でも約5割が悪化と、売上高の動きとは異なり、悪化しているとの認識であった。また、見通しも不変と悪化が5割ずつと回復している感触は得られていない。

前年同期比

好転	不変	悪化
4	5	21

前期比

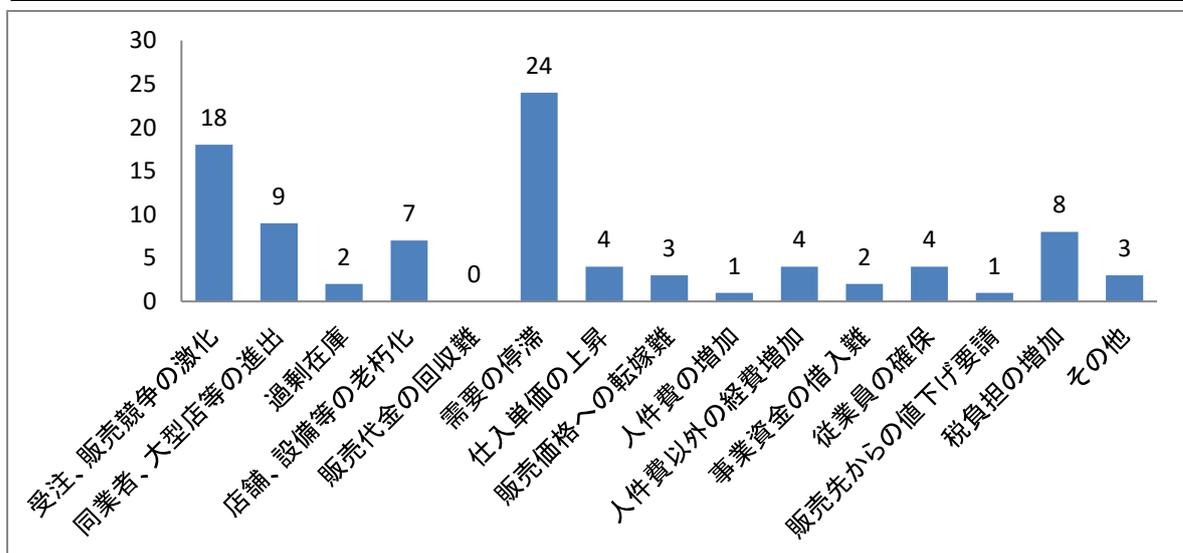
好転	不変	悪化
5	11	14

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	14	16

【経営上の問題点】

需要の停滞が最も多く、次いで受注・販売競争の激化が挙げられた。同業者・大型店の進出や税負担の増加も挙げられ、感染症の影響や資金繰りに苦慮していることが伺える。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

飲食店関連、家具などの製造業については、感染症の影響により、需要が大幅に減少した。ニット製品については、前年の出荷分が販売店の在庫となっているため、出荷量が減少している。一方で巣籠り需要に対応した日用雑貨、建設に関連した金属部品については、売上が上昇した。各社とも消費地の景況の影響を大きく受けているほか、設備の老朽化の問題を抱えている。

(2) 建設業

公共工事は少なく、土木関連は低調であったが、年末からの大雪により除雪需要が多かった。住宅建築関連では、地元工務店での元請工事は少なく、住宅メーカーの下請けに入る傾向が見られた。また、地域内ではなく、地域外の仕事が増加傾向にある。

(3) 卸・小売業

感染症の影響により、消費意欲が抑えられていたためか、動きは鈍い。自粛の影響により、日用品、食料品、電気製品等は好調であった一方、嗜好品などは伸び悩んだ。また、近隣の大型店だけではなく、インターネット販売も競合になってきているとの声も聞かれた。

(4) サービス業

飲食店は悪化傾向から回復していない。テイクアウトに対応した事業者もあるが、以前の利益をカバーするまでには至っていない。特に酒類を含む夜間営業を軸としていた事業者は依然として低調のままである。
理美容業については、来店頻度の減少が売上に影響を与えている。
印刷業においても、受注量が減少傾向にあり、資金繰りに影響が出ている。
各社、新しいサービス展開について検討しているものの、余裕がない状況が伺える。

(様式⑤)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート（令和2年度）

調査対象期間 令和 年 月～ 月
（調査時点 令和 年 月 日）

商 工 会 名	商工会	担当職員名	
企 業 の 概 要	業 種	1：製造 2：建設 3：卸・小売業 4：サービス他	
	従業員数	1：0人 2：1人～2人 3：3人～5人 4：6人～20人 5：20人超	
	企業区分	1：小規模事業者 2：小規模事業者以外	
	後継者の有無	1：有 2：無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(R●年●月～●月)と比較して	前期(R●年●月～●月)と比較して	今期(R●年～月)と比較した来期(R●年●～●月)の見通し
売 上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕 入 単 価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資 金 繰 り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇 用 動 向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景 況 判 断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点（下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化
- ②同業者、大型店等の進出
- ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化
- ⑤販売代金の回収難
- ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇
- ⑧販売価格への転嫁難
- ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加
- ⑪事業資金の借入難
- ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請
- ⑭税負担の増加
- ⑮その他 ()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点（設備投資・販路開拓等）

--